

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	3	学校名	浜松視覚特別支援学校	校長名	大橋 早苗
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
楽しく学び思考力を高める授業づくり	ア 視覚障害教育の充実と基礎学力・課題解決力を身に着ける授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の見え方に応じた支援を講じながら基礎学力をつける授業づくりをする。 	全体 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○触察や観察の機会を設定した。感じたことを言葉で表現したり、数や大きさを確かめたりする学習を通し幼児児童は知識や経験を広げることができた。 (幼小) ○生徒の実態（学力や特性）、学習の定着を図るための授業内容や進め方を考え、授業づくりができた。(中) ○学部研修や一人1授業公開を通して、教員一人一人の授業づくりへの意識が高まった。 (研修)
		<ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を受け手立てを講じたり教材づくりに生かしたりする。 	自立活動 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練士の指導助言を受けて、指導を振り返り、手立てを講じたり、教材を工夫したりするなどして、授業につなげることができた教員が多くいた。(自立) ●事前に担任より、評価していただきたいことについて訓練士と情報交換をして、当日の評価に臨めるようになるとよりよい。(自立)
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、適切かつ効果的に実施する。 	全体 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児児童生徒の実態や教育的ニーズについて共通理解を図り、新学習指導要領や学校教育目標に基づいた教育課程を編成し実施することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・つながりと切れ目のない効果的な指導、支援を行い指導目標を達成することができる。 	全体 95.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科・領域、合わせた指導等と行事の関連を意識した計画により、教育活動の効果的な実施につながった。 ○幼児児童生徒も見通しを持つことができ、自信を持って活動に取り組む姿が見られ学びの定着につながった。(教務)
		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが主語」の視点に立って授業を設計し、適切な目標設定およ 	全体 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学部研修を踏まえ、幼児児童にとって必然性のある学習内容の設定に努めたことで、幼児

		<p>び指導展開、学習評価を重ね、幼児児童生徒の学習の解決に迫ることができる。</p> <p>・授業研究での学びを日頃の授業実践および生活支援に活かす。</p>	<p>研修 100%</p>	<p>A</p>	<p>児童が学習に関心を持って主体的に取り組む姿を引き出すことができた。(幼小)</p> <p>○どの生徒に対しても、選択肢提示や生徒が気付くための間接的な言葉掛けなどができた。(中)</p> <p>○実技、座学共に他の先生の授業の進め方や教材の工夫が参考になった。(専)</p>
	<p>イ 効果的な学びのための ICT 機器・情報等活用力を育てる授業づくり</p>	<p>・ICT 機器・情報活用力が向上し、担当する児童生徒に1つ以上の新しい機器やアプリの使い方を伝えることができる。</p> <p>・ICT 機器等を利用した音声図書や図書室等の活用により本に親しむことが増える。(幼児児童生徒)</p>	<p>全体 100%</p> <p>図書情報 100%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○生徒それぞれの見え方や学び方に合わせて、機器や補助具の使用を促し、使用方法や学び方を伝えることができた。(普)</p> <p>○ICT 機器等を利用した音声図書や図書室の本の活用により、本に親しむ機会が昨年度より増えた。(図情)</p> <p>○児童が読み聞かせを自主的に行うようになったり、それを聞いた児童が上手な読み方を考えたりするなど、本に親しむ様子が見られた。(小)</p>
	<p>ウ キャリア発達に必要な力を培う学習の充実</p>	<p>・「キャリア教育発達段階表」の活用を含む多様な進路学習が自己理解や社会参加に向けた意欲を引き出すことができる。</p>	<p>全体 91.75%</p>	<p>A</p>	<p>○学習面、生活面、係や委員会といった役割活動面の前期後期目標、年間で頑張りたい目標を立案し、達成に向けて取り組めた。(中)</p> <p>○毎月のキャリアパスポート自己評価時に、自身の強みや課題について振り返っている。また、自己評価に留まらず、他者評価も取り入れて、それぞれの強みや課題について見つめ直してはいる。(普)</p> <p>○自室の清掃に心がけて生活する等、自身の目標に取り組めた。(寄)</p>
<p>安全で安心な学校生活</p>	<p>エ 健康・栄養に関する知識と理解を深め体力向上につながる活動の充実</p>	<p>・自身の体や心の健康について把握し、生活習慣を見直している。(幼児児童生徒)</p> <p>・幼児児童生徒の心身の健康を把握し、実態に応じた指導をする。</p> <p>・困ったときや不安なときに教師や家族、友人等身近な人に相談できる。(幼児児童生徒)</p>	<p>全体 100%</p> <p>全体 100%</p> <p>全体 88・9%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○自身の心身の健康を把握しやすいように、生活年齢や実態に応じた指導や支援を行ったことで、幼児児童生徒は困ったときや不安なときに、教師や家族、友人など身近な人に相談したり、自身の心身の健康を振り返ることができている。(保)</p> <p>●ひまわりタイムやこころの相談の利用が少ない。相談の場所や時間帯を柔軟に対応できることを周知したい。(保)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・食について理解を深め、食材の栄養や食事に対する関心が高まる。(幼児児童生徒) 	全体 73.2%	B	<p>○給食時のちよこつと食育、栄養教諭による食育の授業等で知識を身につけたり理解を深めたりすることができている。(保)</p> <p>●生徒によっては配膳をしていたり、近くの人と話を聞いて聞いていないと答えた人がいた。今後は、ちよこつと食育の時間を聞くことができるように環境を整えたい。(保)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習に必要な体力や体づくりをする。 	全体 90.1%	A	<p>○幼稚部では、運動遊びの時間を設け、安心して安全に体を動かすようにしたことで、幼児は様々な体の動きを経験することができた。小学部では、体育の時間以外にも、昼休みに乗り物遊びや運動場遊びに誘うことで、児童は、安心できる環境の中でのびのびと体を動かして楽しむことができた。</p> <p>○スポーツ部の生徒は、キャリアパスポートにおいても、部活動に係る自己目標(体力・技術の向上)を掲げ、活動に取り組むことができた。(普)</p>
オ 防災学習の充実及び防災体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習や体験的活動により緊急時に備えた準備ができる。(教職員・幼児児童生徒・保護者) ・避難訓練や防災学習では防災意識を高め主体的に動くことができる。(教職員・幼児児童生徒) ・防災マニュアル等を見直し、避難時や緊急時の対応を理解できる。 	<p>全体 94.6%</p> <p>全体 100%</p> <p>全体 100%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○訓練では、放送に応じて適切な一次・二次避難、三次避難ができた。また、人形を使用しての心臓マッサージ、AEDの体験を行うことができた。(専)</p> <p>○9月や12月の防災体験会では、保護者や地域にも呼び掛け一緒に防災を考えることができた。</p> <p>●家庭の防災意識をさらに高めるために、今後も保護者参加型の防災イベントや防災だより等での呼び掛けで防災意識を高めていきたい。(生徒指導)</p>
カ 仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識が高まり、相手の人権を尊重したかわりができる。 ・自分の得意なことや仲間のよいところに気付くことができる。(幼児児童生徒) 	<p>全体 100%</p> <p>全体 91.6%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業(道徳や共同学習)や学校行事、委員会活動などを通して、幼児児童生徒は、自他を尊重し合いながら、学校生活を送ることができていた。(生徒指導) ○毎月のキャリアパスポートの自己評価の中では、自分の良さや強み、持ち味について見つめ直すだけでなく、「認め合いタイム」を設定し、仲間の良さや頑

					<p>張りについても目を向けるように促してきた。(普)</p> <p>●自分の強みや協働学習(学び合いや支え合い)の良さに気づくことが難しい生徒もいた。必要に応じて個別指導を行った。(普)</p>
成長を支える支援体制	<p>キ 視覚障害教育センターとしての相談支援体制の充実</p>	<p>・外部専門家や教育機関と連携を取り、相談者に必要な情報や支援を提供する。</p> <p>・対象者に応じた内容で、視覚障害やその支援方法について理解推進活動をする。</p>	<p>教育支援 100%</p> <p>教育支援 100%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○放課後等デイサービスの職員や地域の小中学校職員等、対象に応じた内容で研修を実施した。アンケートでは、見え方や困り感を体験することができた。また、理解が深まり、支援に生かしていきたいという声が多かった。</p> <p>○定期的に来ている相談者は、100%よいと返答があった。不定期の相談者も困ったときには、相談したいと回答があった。</p>
	<p>ク 交流及び共同学習や地域資源を活用した活動の充実</p>	<p>・交流及び共同学習における個々の目標を明確にして取り組む。</p> <p>・地域資源を活用し幼児児童生徒の経験や視野を広げる。</p>	<p>全体 100%</p> <p>全体 87.5%</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>○事前に相手校園と活動内容をねらいについて打ち合わせを丁寧に行い、それをもとに幼児児童にも事前学習を行ったことで、幼児児童はそれぞれにめあてをもって交流することができた。(幼小)</p> <p>●事前学習で目的を伝えていたが十分に理解できない生徒がいた。交流機会の精選や事前学習時間の確保など、生徒主体の活動となるよう支援していく(中)</p>
	<p>ケ 保護者、地域、関係機関に対する教育活動の発信</p>	<p>・ホームページや学校公開、たより等で本校の教育活動の様子が理解できる。(保護者及び外部の意見)</p> <p>・学校の様子や各種案内の発信を工夫することにより視覚障害教育の理解と推進を図る。</p>	<p>全体 91.6%</p> <p>全体 100%</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○学級ごとに連絡帳やお便りを通じてまめに学習の様子を発信した。面談や懇談会の折には、教育活動の意図を説明した。保護者からは、学校でできたことを家でも取り組んだとの報告が多くあった。(幼小)</p> <p>○ラジオ番組に生徒が出演し専攻科のPRを行った。また、特別支援学校ジョブフェアに参加し専攻科をPRした。それらもあり、専攻科に興味ある相談者が例年より多かった。(専)</p>
	<p>コ 自身の強みを生かし日々の対話を大切にしながら協</p>	<p>・自分とは異なる多様な意見に対して肯定的に受け止め、建設的な意見のやり取りをし、同僚と協働しながら業</p>	<p>全体 100%</p>	<p>A</p>	<p>○日々の指導についてや学部内の役割などで、相談や情報共有をしながら業務が進められていた。(小)</p> <p>○担任、副担任の連携を密にし</p>

	<p>働ける 職場づくり</p>	<p>務を進める。</p> <p>・聴覚特別支援学校との連携ができ、魅力ある寄宿舍づくりをする。</p>	<p>寄宿舍 100%</p>	<p>A</p>	<p>て、学級経営や生徒支援ができた。(中)</p> <p>○あおいタイム（グループでの月一度の浜視についての話し合い）では、自分の頑張り紹介、浜視のいいところ、重大ニュース、今後の浜視のめざす姿などを学部、科、寄宿舍の中で話し合い、お互いを認め合う雰囲気醸成が図れた。</p> <p>○「ほめトーク」の積み重ねにより、「ほめ合う」「意見を出し合う」「支え合う」ことが日常化してきた。(普)</p> <p>○視覚生と聴覚生が、お互いを思いどころも楽しめる行事を行おうとする等、お互いを認め合う姿が見られた。また、視覚生が聴覚生に手話で会話したり、聴覚生と一緒にスポーツを楽しんだりする等、魅力ある寄宿舍づくりができてきた。(寄)</p>
--	-----------------------------	--	-----------------	----------	--